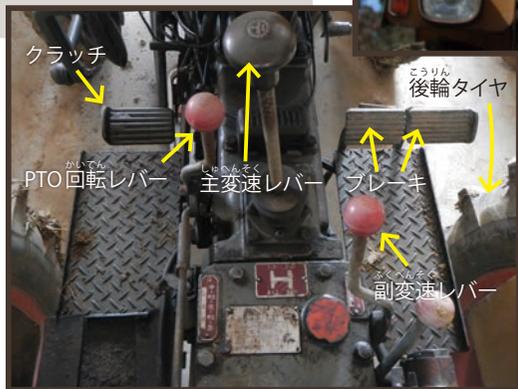


ボンネットの曲面に、かすかな凹凸がある。プレス加工ではなく、鉄板をたたいて丸く仕上げた打ち出し板か？

車速切替えレバー(主・副変速レバー)などが足元にあり、左足でクラッチを踏んで操作する(筆者撮影)



ぬかるみでも作業しやすいように、車高が高くできている



ぶん ふじた だし しやしん やまもとしげ き
文・藤田正 写真・山本茂樹



新連載
クボタL27

クボタ農用4輪トラクタL27型
昭和38~42年
2輪駆動、1498cc、27馬力
3気筒ディーゼルエンジン方式



幼稚園で絵本に出会って

幼いころから、農作業の手伝いをするのが好きだった私は、いつももっと力があればたくさんの手伝いができるのと思っていた。そのころ、幼稚園の絵本でトラクタという農業機械があることを知り、それからはトラクタを使ってもっとたくさん手伝いたいと思い続けてきました。

中学生になったころ、水田の区画整理がはじまり、トラクタの試運転会があるたびに、わが家にも買ってもらえないかなという目に見に行っていました。結局夢はないませんでした。最近になってあのころのトラクタをもう一度見てみたいと思い、全国を探しまわり、それがいま20台あまりになりました。

癖のある生きもののよう

このクボタトラクタは、当時、国産ではもっとも大きなトラクタ

だったそうです。シフトレバーやハンドルがせりだしていて乗り込みにくいです。足を広げて座ると後輪タイヤにつま先がつかえヒヤリとすることもあります。スタートするときには、ゆっくりとクラッチをつながないと前輪が浮き上がりそうになります。パワーステアリングではありません。2輪駆動で、2本の溝のある前輪タイヤは、ハンドルを切ると少し横滑りしながら曲がります。そんな癖のあるトラクタはまるで生きもののようですが、生きていろいろと伝えようとしてくれるようで、動かすがとても楽しいです。

ふじた・ただし
1950年生まれ。京都府亀岡市在住。11年前から年代もののトラクタを集める。NPO法人京の農産物あんしんネットワークにて、農業塾の講師もつとめる